



第4期瀬谷区地域福祉保健計画（令和3年～令和7年度）

暮らしやすいまちづくりの計画



中間案

令和3年2月



瀬谷区役所福祉保健課
瀬谷区社会福祉協議会
区内地域ケアプラザ

目次

1	第4期瀬谷区地域福祉保健計画について	1
	(1) 暮らしやすいまちづくりの計画 全体像	
	(2) 基本理念	
	(3) 副題	
	(4) 基本目標	
	(5) 基本目標を実現するために大切なこと	
	(6) 瀬谷区地域福祉保健計画の構成	
2	基本目標について	4
	基本目標Ⅰ “おたがいさま” で支え合う地域づくり	
	基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり	
	基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり	
3	基本目標を実現するために大切なことについて	11
	① 一人ひとりの個性を尊重する意識づくり	
	② 健やかにこどもが育つ環境づくり	
	③ 幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり	
	④ 連携を深めつながりを強化するネットワークづくり	
	⑤ 必要な人に必要な支援が届くしくみづくり	
4	全域計画について	17
	(1) 区役所	
	(2) 区社会福祉協議会	
	(3) 地域ケアプラザ	
5	地域福祉保健計画について	21
	(1) 地域福祉保健計画とは	
	(2) 地域福祉保健計画策定の意義	
	(3) 瀬谷区地域福祉保健計画	
6	策定のプロセス	24

「地区別計画」は完成版に掲載いたします。
また、以下の内容についてコラムを掲載予定です。

- ・生活困窮者自立支援制度について
- ・横浜型地域包括ケアシステムについて
- ・SDGs（持続可能な開発目標）について
- ・新型コロナウイルス禍での地域活動について
- ・地域活動の相談先について

01 第4期瀬谷区地域福祉保健計画について

(1) 暮らしやすいまちづくりの計画 全体像

第4期瀬谷区地域福祉保健計画(令和3~7年度) 暮らしやすいまちづくりの計画



みんなで作る みんなのしあわせ

基本目標Ⅰ

“おたがいさま”で
支え合う地域づくり

基本目標Ⅱ

健康でいきいきと暮らせる
地域づくり

基本目標Ⅲ

誰もが活躍できる
地域づくり

基本目標を
実現するために
大切なこと

- ①一人ひとりの個性を尊重する意識づくり
- ②健やかに子どもが育つ環境づくり
- ③幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり
- ④連携を深めつながりを強化するネットワークづくり
- ⑤必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

(2) 基本理念

みんなで作る みんなのしあわせ

瀬谷区では第1期から、

♡ 一人ひとりの個性や人間性を大切にします

♡ 一人ひとりが互いに思いやり、地域のきずなを大切にします

♡ 人と人とのあたたかい関係を大切にします

という考え方を念頭に、「みんなで作る みんなのしあわせ」を基本理念と定めて取り組んできました。

第4期もこの基本理念を継続し、瀬谷区に暮らしているすべての人にとって、しあわせな地域をつくるために、区民、団体、行政が連携し、**みんなで取組を進めていきましょう。**

(3) 副題

暮らしやすいまちづくりの計画

瀬谷区では地域福祉保健計画を分かりやすい言葉で表現できるように、第3期より副題(サブタイトル)をつけています。

第4期もこの副題を継続し、地域の様々な課題を、支え合いや助け合いなどの取組で解決し、区民みんなで「暮らしやすいまちづくり」を進めていきましょう。

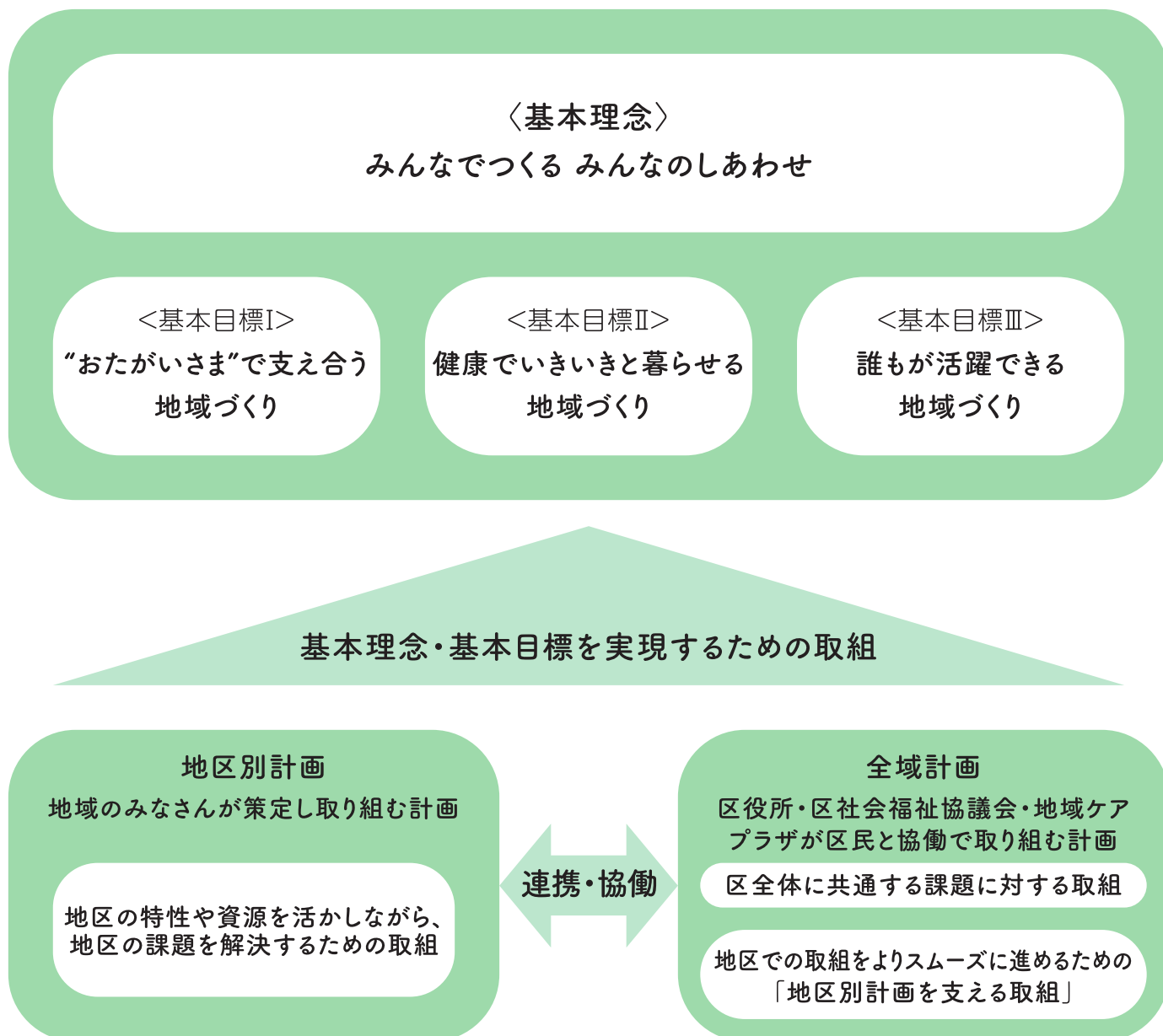
(4) 基本目標

暮らしやすいまちづくりを進めるため、区全体の共通目標として3つの基本目標を立てました。瀬谷区で暮らしているみんなで取組を進めていきましょう。

(5) 基本目標を実現するために大切なこと

基本目標を実現するために大切にしたい考え方や視点を、5つの「大切なこと」としてまとめました。これらの大切なことをみんなで意識して取り組みましょう。

(6) 瀬谷区地域福祉保健計画の構成



瀬谷区地域福祉保健計画は、地域の課題に取り組む「地区別計画」と、区全体で共通する課題に取り組む「全域計画」で構成される計画です。

地区別計画と全域計画が相互に連携・協働して取組を進めることができるよう、第3期地域福祉保健計画からは、基本理念と基本目標を共有しています。

地区別計画

12地区連合自治会町内会エリアごとに策定し、推進する計画です。地区別計画には、福祉保健分野に限らず「暮らしやすいまちづくり」を進めるために地域で取り組む活動を広く盛り込んでいます。計画の策定・推進にあたっては、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザをメンバーとした「地区支援チーム」が支援します。

全域計画

区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザが中心となって取り組む計画です。基本理念、基本目標の実現に向けて、各地区別計画の取組を支援し、よりスムーズに進めるため、主に区全体に共通する課題への取組の計画として位置づけています。

02 基本目標について

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり



第3期までに様々な取組が進められてきたけれど、第4期の基本目標はどんなところがポイントになっているのかしら？

次のページからは、基本目標ごとに大切にしたいキーワード、マンガ、取組事例などが具体的に書かれているよ。さっそく見てみよう！



基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

見守り、支え合いは、居場所づくりや交流の取組によって大きく前進してきました。第4期計画では、認知症の人、障害のある人、生活に困っている人等、様々な人が地域で生活していることをみんなが気づき、支える側・支えられる側を分けることなく、孤立している人がいない、みんなで支え合う“おたがいさま”の地域を目指しましょう。

みんなが気づき

虐待、貧困、8050問題*…。地域には、様々な困りごとを抱えた人もいて、みんなで考えるべき課題があります。まずは、一人ひとりが、地域の今ある状況や課題に気づき、相手の立場になって理解しようとするのが大切です。日々の暮らしの中で、また地域のサロンや配食活動等を通して見守りを進めていきましょう。そして、自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、ボランティア、地域ケアプラザ、施設、学校、企業等との連携を通じて、地域で気づきの目を広げていくのが大切です。

*8050問題…80代の親が50代のこどもの生活を支えるという問題

支える側・支えられる側を分けることなく “おたがいさま”

年齢、病気やけが、出産や育児などによって、誰もが支援を必要とする状況になり得ます。

しかし、支援を必要としていた人でも状況に応じたできることがあり、それを生かすことで支援する立場にもなれるのです。

困っている人がいたら気にかけて、声をかけ、時には自分が助けてもらい、みんなが助け合いの気持ちを大切に支え合いの輪を作りましょう。そして、困っている人が声をあげやすい地域を作りましょう。



〈おたがいさま〉

世代や立場を越えてつながり、支え合いの輪をつくりましょう。

1

最近体力が落ちて、
重たいものを持って歩くのは大変で…。

でも、重たいものは、
お隣さんが買い物ついでに
買ってきてくれて助かっています。



これから買い物に行く
けど、何か一緒に買っ
てくるものある？



2 数日後…



なんか風邪を
ひいちゃったみたい…。

まあ…
それは、大変。



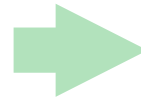
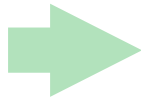
3

あなたが買ってしてくれ
たお野菜で作ったわ。
栄養つけて早く治してね。

わあ、うれしい！
助かります！



顔の見える関係づくりから災害時の助け合い



「挨拶」「声掛け」等を通じて
「顔の見える関係」づくりを進
めましょう。



「顔の見える関係」を築け
たら、日頃からご近所の人
を見守りましょう。

いつもと様子が違うこと(異変)
に気づいた時には相談機関等に
連絡・相談しましょう。

顔見知りになっていると、スムーズに助け合えるね。
発災直後の不安な時にも安心だね。



みんなで取り組む防災訓練

小学校の授業参観日に合わせて防災訓練を
実施し、こどもたちや保護者みんなで参加が
できるように工夫している地区があるよ。



心肺蘇生法について学ぶ小学生



中学生も重要な担い手となって、訓練に参加して
いる地区があるよ。
世代を超えてみんなで訓練を行うことで、地域の
防災力も向上し自助共助の意識が高まりそうだね！



中学生と取り組む救急搬送訓練

基本目標II 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

これまでの健康づくりの取組によって、健康意識の向上や地域活動など人と人とのつながりも広がってきました。引き続き第4期計画でも、誰もが自分らしくいきいきと過ごし、**年齢や障害の有無に関係なく、お互いが理解し合い、元気で生きがいを持って生活することを目指しましょう。**

年齢や障害の有無に関係なく

ここでいう健康とは、年齢や病気、障害の有無によるものではなく、自分が健康であると感じられるような心の充実や社会とのつながりを含めた、幸福感や満足感のことを指しています。それぞれの状態に応じた自分自身の健康づくりが大切です。また、子どもや若い世代へも健康づくりの働きかけを進めていきましょう。



元気で生きがい

誰もが、それぞれにできることや好きなこと、得意なことがあります。その人らしく、健康で生活できるよう取り組んでいくことが大切です。

また、地域活動への参加は健康に良い効果があると言われています。地域での仲間づくりやつながりづくりを通じて、健康づくりも進めていきましょう。



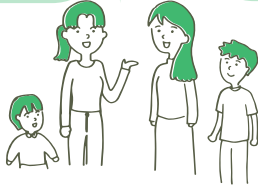
〈いきいき〉

仲間を増やし、みんなで元気にならしましょう。

1

みんなで集まる場
をつくりたいね。

近所のみなさん
と一緒にでき
ないかしら。



2

カローリングで
体を動かして
楽しもうか!



絵本の読み聞か
せは得意よ。



3

取組をはじめから

お友達と遊ぶ
機会が増えて
良かったわ。

こどもも夜早く
寝てよく食べる
ようになったわ。



生活にめりはり
ができて体調が
よくなったわ。

4

地域活動をしていない人に
比べボランティア活動をし
ている人は、4年後も元
気な生活を続けていた人
が**3.9倍***多いそうです。

趣味やサークル活動をしている人では
1.5倍*多いというデータもあるんです。



※出典:東京都健康長寿医療センター研究所

みんなで取り組む健康づくり

瀬谷区で取り組まれている事例を紹介します。

カローリング交流会

障害者のグループホーム入居者や放課後キッズクラブが参加。地域住民とスポーツを通じて交流しています。



介護予防体操

地域の自治会館などを利用し、誰でも気軽に参加できます。



コミュニティカフェ

地域の方のお宅や自治会館等を会場とし、みなさんの集いの場となっています。



ポールウォーキング

2本のポールを利用し、景色を楽しみながら川沿いの遊歩道をウォーキングしています。



農福連携事業

障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組です。



健康講座

フレイル予防*、感染症予防、食育等地域住民の関心ごとに合わせて企画しています。



※フレイル…高齢期になり心身の機能や活力が衰え、虚弱になった状態

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

これまでの取組を通し、子育て支援、高齢・多世代交流など地域の身近な参加の場が広がってきました。これからは、これまで参加の少なかった若い人や男性等にも地域を知ってもらおうきっかけ作りが大切です。そして、地域で暮らす誰もが、それぞれの立場で活躍できることを目指しましょう。

身近な

住み慣れた自分の地域で気軽に楽しめる活動が増えると、地域のつながりもできます。日々の暮らしの中で様々な人が地域の活動に触れ、その楽しさや大切さを感じられることが大切です。



活躍できる

ここでいう活躍とは、ある特定の人をめざましい活動を指すものではありません。一人ひとりの個性や存在そのものがいきいきとするような、役割や居場所があるということです。人それぞれの「できる」を大切にしましょう。



〈活躍・居場所〉

それぞれの「できる」を大切にしましょう。

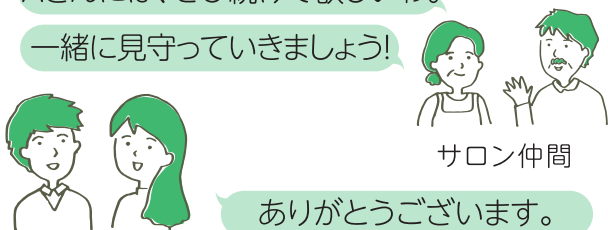
1 母は、最近忘れ物が多く、受診したところ認知症の診断が出ました。



2 サロンのボランティアをやめてもらった方が良いのかなって…。続けられるか不安で…。



3 Aさんには、ぜひ続けて欲しいわ。一緒に見守っていきましょう!



4 さすがAさん! やっぱり編み物お上手ね。時に忘れてしまうことやこれまでと同じようにできないこともあるけど、楽しそうに過ごしています。



困窮世帯を支えた地域の力

支援を必要とする人に自分達は何ができるかを考え、地域・関係機関がチームで取り組んだ事例です。

生活に困窮

住環境に課題

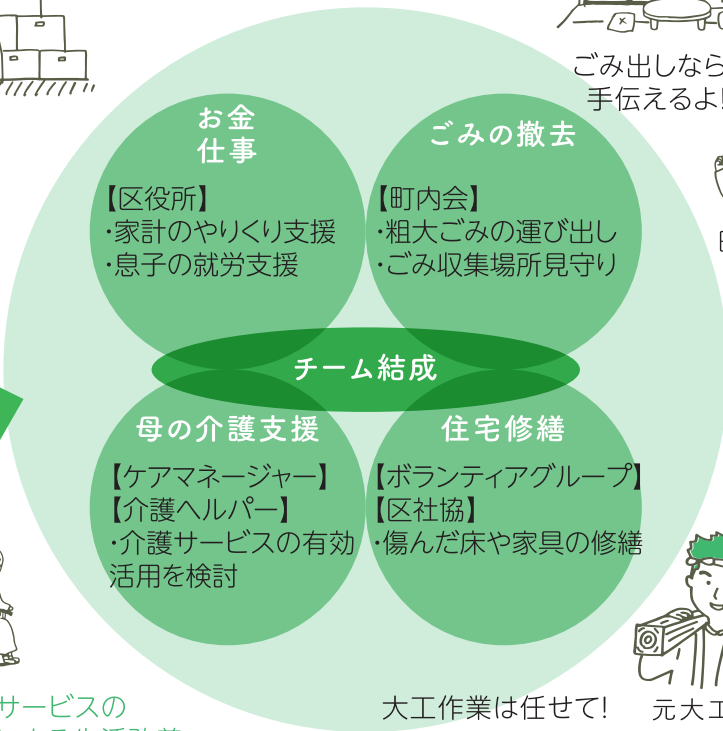
歩行の難しい高齢の母

ケアプラザへ相談

あのお家…何か困っていることがありそうだな…ケアプラザに相談してみよう



町内会の協力を得てごみの運び出し



大作業は任せて! 元大工さん

ボランティアによる修繕作業

日頃からこの家庭を気にかけていた地域の方やボランティアグループの活躍によって住環境が改善されました。

03 基本目標を実現するために大切なことについて

第4期計画の「3つの基本目標」を実現するために必要な大切なこととして5つのポイントを紹介します。

- ① 一人ひとりの個性を尊重する意識づくり
- ② 健やかにこどもが育つ環境づくり
- ③ 幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり
- ④ 連携を深めつながりを強化するネットワークづくり
- ⑤ 必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

『一人ひとりの個性を尊重する意識づくり』を大切にしていくと
『“おたがいさま”で支え合う地域づくり』につながるって
具体的にはどんな場面や活動なんだろう？



5つの大切なことを基本目標ごとに事例を通して見ていきましょう。
掲載されている事例以外にも、どのようなことがあるかみんなで考えてみましょう。

① 一人ひとりの個性を尊重する意識づくり

こどもから大人まで、認知症や障害の有無、国籍や性別に関わらず、一人ひとりを大切に多様性を認め合いましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

～みんなちがって、当たり前～



隣に引っ越してきた
〇〇です。
実はうちの息子には
障害があって…。

あら、そうなの。
いろんな子がいて当たり前だから
ねー。
何か困ったことがあったら声をかけ
合いましょうね。



障害の有無に関係なく、地域のなかで声をかけてくれる人がいるととても安心します♡
こどもの成長と一緒に喜んでくれたり、見守ってくださったりするとうれしいです。

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

～認知症になってもいきいきと～



最近友人が認知症の症状が出てきて
家の中に閉じこもっていて心配なんだ。

今度、コミュニティカフェにお誘いしま
しょうよ。誰かとお話しながら、お茶を
飲むだけでも、気分がちがうわよ。



基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

～その人の強みや特技を生かして～



息子の得意なことはパソコン。一方、私は、町内
会の役員ですが、地域のイベントのチラシ作りの
仕事は苦手…。
そんな時、息子は、自分の特技を発揮して、イベ
ントの素敵なチラシを作ってくれます。
地域のみなさんにもとても好評で。息子は、私
の苦手なことを手伝ってくれる子です。



② 健やかにこどもが育つ環境づくり

こどもがのびのびと安心して暮らせるまちづくりを目指し、地域でこどもを育てるといふ風土をつくりましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

～笑顔広がるこども食堂～



今日は、近所のみんなと一緒に自治会館でごはんが食べられる日。楽しみだな。

おじさん!ご飯食べ終わったら、けん玉教えてね!

いいぞ!みんなでカルタもやろう!

普段は、一人暮らしで静かな食卓だけど、この日は、こどもたちのたくさんの笑顔が見られて、元気がもらえるよ。



基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

～こどもの遊び場プレイパーク～



今度の日曜日、せやまる公園でやっているプレイパーク*に一緒に行こうよ!

木登りとか泥んこ遊びとか自由に思いっきりあそべるよっ。プレイリーダー*のお兄さんやお姉さんもいて楽しいよ♪

※プレイパーク…こどもたちが自分の力で自由に遊ぶ「遊び場」



※プレイリーダー…こどもがいきいきと遊べる環境を作り、遊びを引き出す人

楽しそうだね!
僕も、外へ遊びに行きたくなってきたよ。

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

～こどもと一緒に取り組む夏祭り～



今年の夏祭り模擬店のお手伝いをしてくれる子はいるかな?

私は、かき氷! 僕は、あてくじ♡
私は、ボールすくいを手伝います。



こうして、毎年、夏祭りでは、こども達が大活躍しています。

③ 幅広い世代や多様な人が安心できる居場所づくり

誰もが社会参加できる居場所を見つけられるような機会をつくりましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

～国籍が違って、仲間～

● 回覧板
団地住民誰でも集える
コミュニティサロン担い手募集中!!
☎ 045-000-0000



日本に来たばかりで、友達もいない…。
これは、どんな所なんだろう?私も行っているのかな?
ちょっと、連絡してみよう!

あの、私も、コミュニティサロンに行ってもいいですか?

是非、いらして!大歓迎よ!



その後、私は、このサロンのスタッフとなり、自国の料理を皆にふるまったり、得意の英語を教えたりしています。このサロンで、みんなと過ごす時間がとても楽しみです。

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

～みんなで健康 ラジオ体操～



私達の地区には、こどもから高齢者まで、たくさんの方が毎朝集うラジオ体操の会があります!スタンプカードのポイントがたまると商店街のお店で使えて、こどもたちも楽しみにしています。一人より、みんなで行う体操は、心も身体も健康になると思います。ラジオ体操が、私達の日課になっています。

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

～ふるさとは心の居場所～



私のまちには、お祭り、運動会、もちつき大会…楽しいイベントがたくさんあります。地域のおじさんやおばさんが登下校の時にこどもたちを笑顔で見守ってくれます。みんなで集える公園やケアプラザ、自治会館もあります。そして、みんなが自分たちのまちを良くするために何が出来るのかを考えています。たくさんの人のやさしさや笑顔があふれるこのまちが、私の安心できる居場所です。



4

連携を深めつながりを強化するネットワークづくり

支援機関や団体、学校、企業と、地域住民で協働し、情報の共有や発信、地域資源の活用などネットワークづくりをすすめましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

～地域で取り組む防災訓練～



町内会長

今度の防災訓練は、障害者施設と合同で実施したいと思って、施設を利用されている方にも参加して欲しいのですが。

いざという時に助け合いができるように、日頃のおつき合いが大切ですね!是非お願いします。



施設職員

～施設と合同開催の防災訓練の後～



手助けしたいと思っていただけ、一緒に荷物を運び、一生懸命訓練に取り組む姿を見て、心強く感じました。

こちら側も部屋の開放や物品の提供など災害時に協力できることを考える良い機会になりました。



基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

～医療機関も地域で活躍!～



町内会役員

自治会館を使って健康講座をしたいけど、どんな内容が良いかな。

飲み忘れで、きちんと服薬できていない高齢者がいるから、薬のことを教えてくれる人はいないかしら。



民生委員



それなら、薬剤師さんが出張してくれるって、前の会議で聞いたぞ。早速相談してみよう。

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

～企業も地域で活躍!～



この辺りは店がなくて、困っていたけど、毎週移動販売の車が来てくれて、とても助かっているわ。

やっぱり、自分で見て買いたいし、選ぶのって楽しいわよね。



移動販売員

店にいるだけだとわからないことも、地域で話を聞くと、もっと自分たちが役立てることが見つけられそうだな。

⑤ 必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

本当に困っている人が孤立せず、支援につながられるよう、誰もが住みやすい社会をつくりましょう。

基本目標Ⅰ “おたがいさま”で支え合う地域づくり

～フードドライブで有効活用～



まだ食べられるのに…捨てるのもったいなくて…。何か良い方法はないかしら。

フードドライブ活動をご存知ですか？
家庭で使いきれない食品などを、必要としている人へ届ける活動です。
こども食堂みたいな、地域の支え合い活動にも届けられているんですよ。



社会福祉協議会
職員



使い切れないものを持っている人と、それを必要としている人をつなぐしくみですね！この取組が地域で広がればみんなで助け合えますね！

基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり

～初めての育児を応援～



もうすぐ赤ちゃんが産まれます。
でも、引っ越してきたばかりで、近所のことがよく分からなくて…。

地域の子育てサロンに行ってみたら？
妊娠中から色々相談もできるし、知り合いも増えますよ。



主任児童委員



近くに知り合いがいなくて、初めての子育てになるので心細かったんです。是非行ってみます！

基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり

～仕事探しのお手伝い～



仕事がなかなか見つからなくて…。これからどうすれば良いか不安で…。

区役所で就労支援が受けられるの知ってる？
履歴書の書き方や面接のアドバイスも受けられるわ。



知らなかったよ、それは心強いね！
すぐに相談してみるね！！

04 全域計画について

全域計画として「区役所」「区社会福祉協議会」「地域ケアプラザ」が5年間で取り組む方向性についてまとめました。

(1) 区役所

基本目標Ⅰ

“おたがいさま”で
支え合う地域づくり

- ・身近な地域の支え合いを啓発し、高齢者・障害者等の居場所づくりや見守り支え合い活動を支援します。また、困っている人に寄り添える関係づくりの取組を進めます。
- ・子育て中の方が孤立しないよう、地域の方々や各機関が連携し、地域で安心して子育てできる環境づくりを支援します。
- ・様々な課題を抱える家庭や生活に困窮する方への包括的な相談・支援により、生活基盤の安定・自立を図ります。
- ・地域住民が実施する防災訓練の支援、区が実施する研修会等による啓発活動を通じて、地域防災力の向上につなげます。
- ・区民の防犯及び交通安全の意識向上のため、啓発活動などを通じ、安心・安全なまちづくりを進めます。
- ・地域情報の収集、各種情報の発信、地域活動の支援を通じ、地域のつながりづくりを進めます。

基本目標Ⅱ

健康でいきいきと
暮らせる地域づくり

- ・健康寿命の延伸や健康的な生活が送れるよう、生活習慣病の予防・重症化予防や介護予防に関する取組を進めます。
- ・こころや体の健康の大切さについて区民へ周知し、病気の予防・早期発見のため、各種健診の受診率や健康意識の向上を目指します。
- ・自主的な健康づくりの活動を支援し、生きがいをもち、幅広い世代が元気に暮らせる地域づくりを進めます。
- ・食中毒・感染症の予防及び拡大防止等について、区民や社会福祉施設等へ呼びかけ、健康危機管理に取り組みます。
- ・あらゆる世代のスポーツや障害者スポーツを通じて、こどもたちの体力向上、区民の健康維持や地域交流等、いきいきとした暮らしを推進します。
- ・公園を使いやすいように維持し、公園利用者へ健康遊具の活用について積極的な紹介を行い、健康づくりの取組を支援します。

- ・年齢、性別、障害・病気等の有無にかかわらず、誰もが地域の活動や人と人との関わりの中で、お互いに尊重し合い役割が担えるよう取組を進めます。
- ・学校や地域での幅広い年齢層の方々との交流活動を通して、子どもたちが地域で豊かに成長することを支援します。
- ・子どもたちの学びを支えるさまざまな方々と連携し、地域で行う子どもたちの学習をサポートするための活動を支援します。
- ・日頃からの防災対策や震災や風水害等の災害時、区民へ必要な情報を発信し、一人ひとりの迅速な災害対応につながるよう支援します。
- ・国際園芸博覧会の機運醸成きうんじょうせいに向けた取組や上瀬谷通信施設の跡地利用をはじめとしたまちづくりを区民、事業者等が協働で進め、暮らしやすいまちの実現を目指します。
- ・地域の課題に各種団体が連携して取り組める土壌を作るとともに、人材の発掘及び育成に取り組み、地域活動につなぐしくみを作ります。
- ・公園や歩道の段差解消や整備などに取り組み、利用者の安全確保やバリアフリー化の推進を図ります。

コラムを掲載予定

(2) 区社会福祉協議会

基本目標Ⅰ

“おたがいさま”で
支え合う地域づくり

- ・ボランティアや地区社協、地域ケアプラザ等関係機関と連携し、一人ひとりが抱える困りごとについて、地域が一体となって解決できる地域づくりを進めます。
- ・こどもが健やかに育つ地域づくりを目指し、学習支援、地域での居場所づくりに取り組みます。
- ・広報紙やホームページ等を活用することで、介護予防や社会参加の場等様々な福祉保健に関する情報を発信します。
- ・民間企業や支援団体等からの協力により、生活困窮者や地域活動団体に「食」をはじめとした生活支援を行います。
- ・ガイドボランティア等を育成・発掘することを通じて広く区民に障害への理解を促し、おたがいさまの地域づくりを目指します。

基本目標Ⅱ

健康でいきいきと
暮らせる地域づくり

- ・「交流・居場所」「生活支援」「見守り・つながり」のための地域活動支援と新規活動の構築を進めます。
- ・地区活動に関わる各種助成金の交付を行います。(瀬谷区ふれあい助成金、地区社協活動費、賛助会費還元金等)
- ・福祉教育の取組を通じて、障害や福祉への理解の機会を作り、地域には様々な人が暮らしているということに気づく力を高めます。
- ・権利擁護事業及び成年後見制度の利用促進に向けて、区役所、地域ケアプラザと連携し周知啓発の取組を進めます。
- ・区役所と共催し、長寿を祝う等高齢者への支援を行うとともに、福祉保健活動者の功績をたたえ、社会福祉功労者表彰式を開催します。
- ・新型コロナウイルス等の感染症により、地域活動のつながりを途切れさせないよう新生活様式に配慮した取組の支援、啓発を行います。

基本目標Ⅲ

誰もが活躍できる
地域づくり

- ・区民のボランティア活動への関心を高め、活動しやすいコーディネートを行います。
- ・既存の様々なボランティア・福祉保健活動団体が継続していきいきと活動できるよう支援します。
- ・幅広い年代の人がボランティア活動を通じて地域福祉への関心を高めていけるよう働きかけます。
- ・社会福祉施設や民間企業等と連携した地域支援を進めます。
- ・区災害ボランティアネットワークとの協働により、平時からの訓練を行い、発災時の対応について地域の意識を高めます。
- ・さまざまな寄付のかたち(フードドライブ、ヨコハマ寄付本等)を提案することで、寄付文化の醸成を図ります。

(3) 地域ケアプラザ

基本目標Ⅰ

“おたがいさま”で
支え合う地域づくり

- ・認知症の方とその家族が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、理解者を増やすとともに、普及啓発、担い手の育成を目指します。
- ・医療・介護の専門職と地域の方とともに支えあいの地域づくりを進めます。
- ・虐待の防止や早期発見のため、区役所や関係機関、地域住民とネットワークを構築し、連携を図ります。
- ・地域ケアプラザの福祉避難所としての位置づけを地域へ周知します。
- ・地域で子育てする親子が、子育て中の不安や悩みが相談でき、仲間づくりができる子育てサロンや子育てサークルなどを紹介し、親子のサポートを行います。
- ・企業や商店と連携し、生活しやすいまちづくりを支援します。

基本目標Ⅱ

健康でいきいきと
暮らせる地域づくり

- ・地域の社会資源開発及び介護予防を推進します。
- ・健康づくりに関心のある区民と連携・協働しながら介護予防・健康づくり活動の取組(場づくり)を進めます。
- ・高齢者、こども、障害児・者、生活困窮者等、広く本人やその家族等の相談を受け止めます。

基本目標Ⅲ

誰もが活躍できる
地域づくり

- ・幅広い世代のボランティアの発掘・育成に取り組み、それぞれが各々の特技(得意とすること)を活かせる場づくりを推進します。
- ・介護技術の取得や介護相談が出来る場として『介護者のつどい』を拡充強化し、家庭での介護を支援します。
- ・障害や認知症等の有無に関わらず、その人が無理なく出来ることを活かせる場に繋げられるよう支援します。

05 地域福祉保健計画について

(1) 地域福祉保健計画とは

地域福祉保健計画は、「地域に暮らす誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせるように、区民・団体・事業者・行政の役割と連携を明確にし、支え合うしくみをつくる」ことを目的としています。

この計画は、社会福祉法(第107条)に位置づけられた行政計画です。この中で、社会福祉の地域での推進(地域福祉)が法の目的として掲げられ(第1条、第4条)、そのための市町村地域福祉保健計画の策定が規定されました。横浜市では、計画の名称を「地域福祉保健計画」とし、福祉と保健の取組を一体的に推進しています。

横浜市においては、市計画、18区ごとの区計画(全域計画・地区別計画)を策定しています。区ごとに計画を策定することで、区の特性に応じた取組を進めることができます。

また、区社会福祉協議会が推進してきた「地域福祉活動計画」は、地域福祉保健計画と同じ目的をもつため、一体的に策定、推進しています。

(2) 地域福祉保健計画策定の意義

地域福祉保健計画は、地域住民と関係機関・団体等が協力して取り組む地域づくりを計画として明文化し、それぞれが連携を図りながら推進していきます。

これまで、計画の推進の中で大切にしてきたことは、「住民主体」と「協働」です。地域の状況に合わせて、より良い地域づくりを進めていくためには、そのまちに住む一人ひとりが「私たちのまち」に関心を持つこと、そして地域住民や自治会町内会をはじめとする住民組織と、地域にある様々な機関や団体、施設等が協力して地域福祉保健の推進に取り組むことが重要です。

計画の策定を通じて、地域住民と関係機関・団体等が地域ごとの現状と課題を明らかにし、より良いまちづくりに向けた目標を共有することで、同じ方向を見据えて、それぞれの役割に応じた取組を進めていくことができます。

コラム掲載予定

(3) 瀬谷区地域福祉保健計画

瀬谷区地域福祉保健計画は、「暮らしやすいまちづくりの計画」を副題(サブタイトル)とし、みんなで考え、地域全体で取り組む計画としています。様々な取組を通して、みんなで暮らしやすいまちづくりを目指します。

ア 計画の対象者

瀬谷区に生活している「すべての人」を対象とします。

イ 計画の期間

平成18年度から始まった5年ごとの計画です。

ウ 第1期から第3期計画の成果と第4期計画への継続性

第1期計画から第3期計画にかけて、サロンなど様々な地域交流の場が増加し、健康づくり・生きがいがづくりの活動も増えました。そして、見守り、支え合い活動も大きく前進してきました。また、区民、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、区役所との連携強化により、計画の推進が一体的に進められています。

第4期計画は、これまでの様々な取組の成果を生かし、引き続き推進するため、第3期計画との「継続性」を持たせ、区として充実が必要な内容について反映させています。

第1期 平成18年～22年度(5年間)

- ・見守り体制づくりを推進
- ・サロンなど、地域の交流の場が増加
- ・地区別計画の推進を支援する、地区支援チームの設置

第2期 平成23年～27年度(5年間)

- ・見守り・支え合い活動を推進
- ・健康づくり、生きがいがづくりの活動が増加
- ・区役所、区社会福祉協議会、地域ケアプラザの連携強化

第3期 平成28年～令和2年度(5年間)

- ・認知症カフェ、学習支援、こども食堂など新たな場の増加
- ・地区での健康づくりの取組の増加(ウォーキング、介護予防)
- ・障害についての理解の推進
- ・生活支援コーディネーターの配置による、関係機関との連携や地域への支援の推進

第4期

令和3年～7年度

“おたがいさま”で
支え合う地域づくり

健康でいきいきと
暮らせる地域づくり

誰もが活躍できる
地域づくり

継続性

地域の様々な取組～暮らしやすいまちづくりのイメージ

様々な取組

防災訓練
広報活動 啓発活動 防犯パトロール 防犯グッズ配布
ボランティア活動 健康体操 ウォーキング 美化活動
ラジオ体操 サロン コミュニティカフェ レクリエーション大会
あいさつ 見守り活動 敬老会
食事会 配食サービス 運動会 お祭り 文化、スポーツ活動
プレイパーク 中・高生ボランティア こども会 学習支援 こども食堂
登下校の見守り PTA活動

取組から生まれる 様々な効果

相互理解
交流 地域への愛着
見守り合い 顔の見える関係づくり 参加者の広がり
健康づくり 助け合い・支え合い 問題の早期発見

今すでに行っている活動が
地域福祉保健計画の取組
に含まれているんだね。



困りごとの解決へ

介護予防 孤独死の予防 生活困窮者の支援
介護者の負担軽減 子育て不安の軽減
健康でいきいき 災害時の助け合い 虐待の防止
自殺の防止 いじめの防止 まちの美化 犯罪の防止 交通安全
振り込め詐欺の防止

取組を通して生まれた“つながり”によって
みんなの生活が支えられているんだね!



計画が目指すもの

暮らしやすいまちづくり

日々の様々な取組が、暮らしやすい
まちづくりに“つながって”いるんだね!



06 策定のプロセス

第4期計画策定にあたり、「区民意識調査」、地域福祉保健活動に携わっている団体への「ヒアリング」、各団体の代表の方を中心として構成された「第4期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会」を開催し、様々なご意見をいただきながら策定を進めました。

『第3期の振り返りについて』策定懇談会でのご意見

基本目標Ⅰ 隣近所で見守り・支え合う地域づくり

成果) 障害の啓発活動や取組を通して障害理解が進んだ。
サロンや見守りグッズが充実してきた。
地域の見守りの意識が高まった。
こども食堂やこどもの居場所が増えてきた。

課題) 8050問題・引きこもりなどは、地域との接点がなく気づくことが難しい。
本当に支援が必要なこどもの情報共有が難しい。
赤ちゃんから青年以降も途切れない支援を行う。
虐待など深刻な問題に地域で気づき、すぐ動ける体制づくりを考える。 等

基本目標Ⅱ 健康・長寿をめざす地域づくり

成果) スポーツで多世代交流が進んだ。
サロンで認知症予防の啓発が進んだ。
認知症カフェ・コミュニティカフェが増えた。

課題) 特定健診の受診率が低い。
若い人向けの健康づくりの活動が少ない。
すべての年齢層での健康長寿にしたい。
歩けない等、活動に参加できない方へ支援を行う。 等

基本目標Ⅲ 誰もが活動に参加する地域づくり

成果) まんまるクラフトや事業所販売等を通じて障害児者との関わりが増えた。
高齢者も障害者も地域参加の意識が高まった。
施設と地域のつながりが増えた。

課題) リタイアした男性とのつながりができていない。
誰でも役割を持ち、活躍できるしくみづくりを考える。
若い世代の地域活動の参加が少ない。
居場所・集える場があることを周知していく。
担い手不足や高齢化が進んでいる。 等

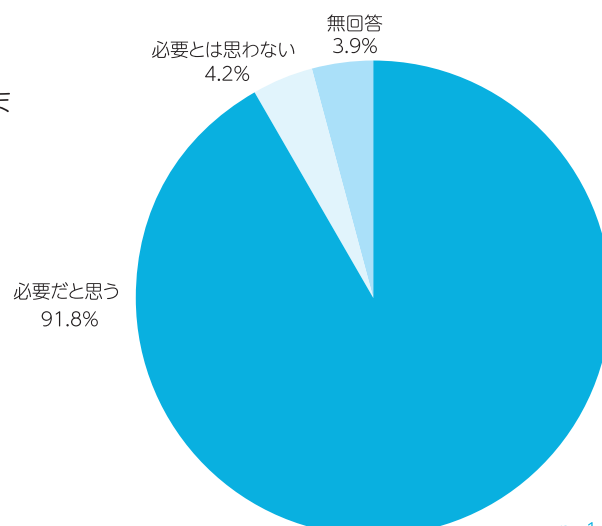
基本目標 I

団体名	ヒアリングからいただいたご意見	キーワード
障害者支援・当事者団体	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性を認め合う世の中になっているかということ、活動が活発で居心地が良い場所があるほど余計に他と分断化されているとも言える。 ・情報を聞くだけでは障害の内容はわからない。実際にふれ合って知ってもらうのがよい。 	個性の尊重
	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいうちから常に高齢の方も障害の方も一緒に参加できる環境があれば、自然と「自分達は自分のままで良い」と思ってもらえる社会になる。 	ふれあい
	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルな環境を作っていかななくてはいけない。情報の伝えかたを模索している。 	環境整備
	<ul style="list-style-type: none"> ・障害理解の座学でなく、一緒に活動を体験・実施できるよう自立支援協議会とともに取り組んでいる。 ・事業所の製品を障害の人と地域の人と一緒に作る活動を実施し理解啓発している。 	連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・今は地域の方と関係ができ自立支援協議会の活動や精神障害のことを知ってもらう機会が増えた。 ・障害の支援者だけでなく、今後、色々な団体、職種や立場の方と連携していきたい。 	
子育て支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれは地域のためになりたいと思えるような体験ができる親子の広場の必要性は高い。 	こどもの見守り
	<ul style="list-style-type: none"> ・異世代交流はお互いのイベントをやっていて緩やかに触れ合える場所があるとよい。 ・子育てに関して地域の関心を高める方策を考えたい。 	ふれあい
地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域から、当事者と交流できる場をつくりたいという声があがってきている。 	ふれあい
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中に、防災訓練を障害のある人と一緒にやっという動きがある。 	地域の支え
	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見は高齢者に限らず、障害者の成年後見もある。基幹相談支援センターの周知も含め、関係機関との連携を深めたい。 	連携
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進む中で、サロンなど地域での取組も増えた。 ・「見守り・支え合い」という言葉が、地域に浸透してきている。 	見守り 支え合い
	<ul style="list-style-type: none"> ・複合的な課題を持つ世帯に対し、生活困窮の解決につながるような支援のできるしくみづくりが必要。 	つなげる

地域のつながりを深める必要性

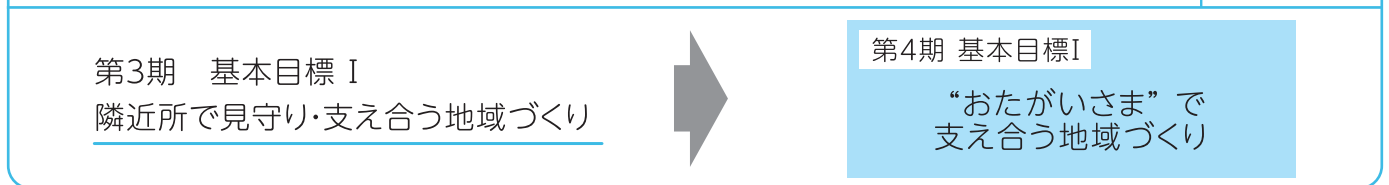
◇全体の91.8%が地域のつながりを重要視しています。

(令和元年度区民意識調査)

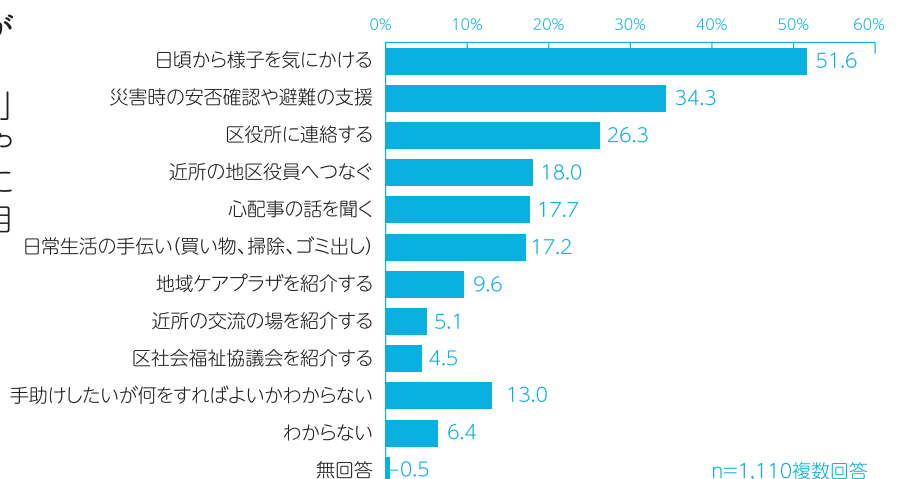


n=1,201

「第4期に向けて」策定懇談会でのご意見	キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・「交通安全の取組」「日頃の備え」「福祉施設や学校と地域の関わり」など見守り・支え合いが災害時にどう活かされるのかをしっかりと考えることが大事。 ・気づくことができれば対応ができるが、“気づくことが難しい”という問題がどの目標でも増えてきているのが4期に向けての大きな課題。 ・気づきは大切なキーワードだが、入れ方を考える余地はある。 ・気づき合うは大切だが、「支え合うための気づき」と考えると、「“おたがいさま”で支え合う」はどうか？ ・虐待の深刻な問題があるが、発見しにくい。地域の中で専門性と気づきの間をつなぐしくみが必要。 ・認知症の取組や子ども達をどう地域の中で見守り育てていくかが大事。 ・地域につながっていない人をどうやって地域で支えていくか？ ・中学生になると、地域の活動も率先してできる。これから大人になり見守る側にもなる。地域でも受け入れる準備体制も必要。 ・小さな地域で、顔の見える関係の中で「おたがいさま」という言葉が出ているのが良い。 ・障害のある子は支援される側だけでなく、一人ひとりできることがたくさんある。支援する側にもなれる。地域でその子のできることを一緒に考え、育ちを一緒に見て、共感しあえると良い。障害のある子ども、地域に当たり前にいるという感覚を共有して話し合えたら。おたがいさまの気持ちが大切。 ・災害の時や介護が必要になった時、一番大切になるのは地域の支え。 ・福祉の専門家はカテゴリーで見がちだが、地域で考えるときは、「困窮者」「障害者」等ではなく、様々な人が暮らしていることを理解し、みんなで一緒にできる計画になるとよい。 ・「みんなで作るみんなのしあわせ」が理念になっているように、「皆」を「みんな」とした方が柔らかく受け入れやすいのではないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 見守り 支え合い 気づき つなげる 認知症の 取組 子どもの 見守り おたがいさま 地域の支え みんな



「手助けを必要としている人、手助けが必要となりそうな人」にできる手助け
 ◇「日頃から様子を気にかける」(51.6%)、「災害時の安否確認や避難の支援」(34.3%)、「区役所に連絡する」(26.3%)が上位3項目です。
 (令和元年度区民意識調査)

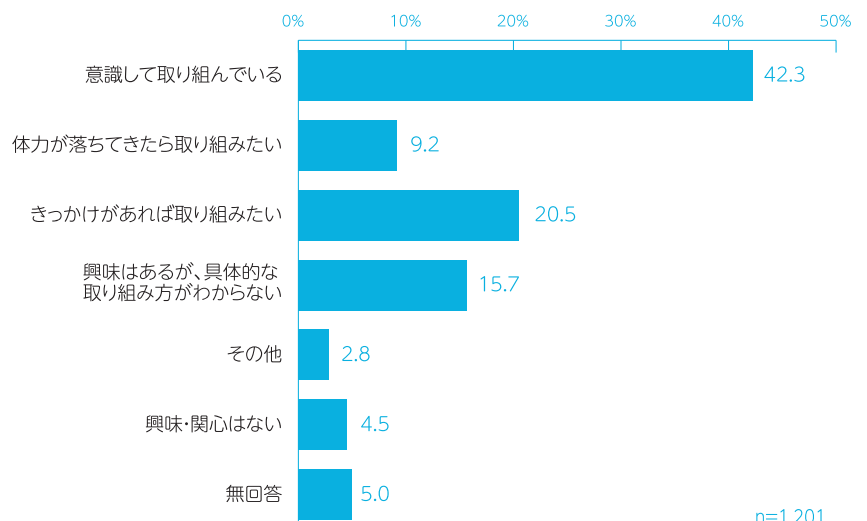


基本目標 II

団体名	ヒアリングからいただいたご意見	キーワード
子育て支援団体	・お父さんの会社に「育児を二人で」という雰囲気を持って欲しいし、お母さんも働き方の選択が増えるなど、ワークライフバランスの常識が変わってもらえると良い。	ワークライフバランス
	・子育て広場では、母親に気軽に来てもらい、疑問を持った時、相談してもらえるようにしている。	相談体制
ボランティア団体	・人を集めるヒントは、ゆるく時間を区切り参加してもらうこと。 ・ボランティアは、自分自身が楽しんで参加しないと来てくれる方も楽しくない。 ・男性だけの参加日を設定して、きっかけづくりをしたらどうか。	活動に参加することで健康
	・現役ボランティアが認知症になった場合の対応を考えたい。	
障害者支援・当事者団体	・ガイドヘルパーを使って外に出る等、外に向かって社会活動していくことを法人として考えたい。 ・事業所につながっていない方も含めて社会参加できるようにしていけるとよい。 ・スポーツ、ウォーキング、音楽等地域の中でできることから活動に取り組んでいきたい。	
地域ケアプラザ	・瀬谷区は、区民の人の健康への意識が高い。	健康意識
	・成年後見の利用促進について、生活支援コーディネーターは社会福祉職と連携し、瀬谷区内の行政書士等に講座を依頼して、エンディングノートの書き方講座等を開催している。	制度促進
	・中高生や大学生でボランティアしている人や、高齢者でも子育て支援のボランティアで活躍している人もいる。ボランティアをすることで介護予防にも繋がるが、介護予防だけに限定せず、第4期計画では活動者の世代に幅を持てればよいと思う	元気生きがい

健康づくりへの取組

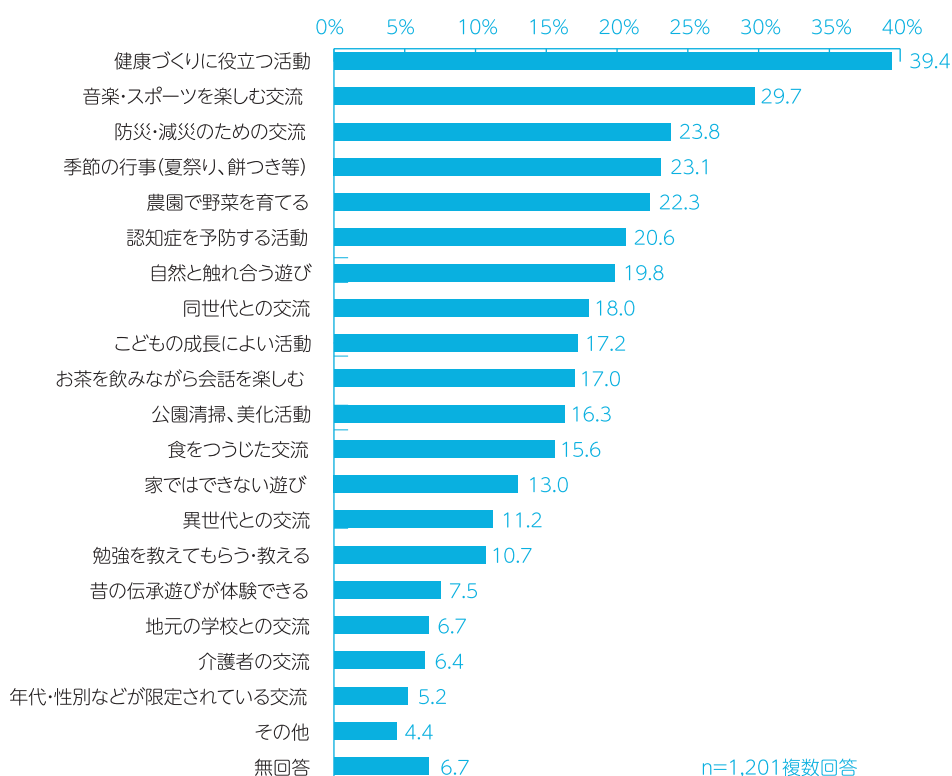
◇健康づくりへの取組については、「意識的に取り組んでいる」(42.3%)、「きっかけがあれば取り組みたい」(20.5%)、「興味はあるが、具体的な取り組み方がわからない」(15.7%)などの順となっています。
(令和元年度区民意識調査)



「第4期に向けて」策定懇談会でのご意見	キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・健康推進のウオーキングが進んだ。障害のある方とも一緒に活動した。歩けない人の支援はどうしていくか？ ・瀬谷区民の健診受診率が低い。受診率をどうやってあげていくか。 ・健康長寿の表現は、高齢者のイメージだが、すべての年齢層での健康長寿にしたい。健康は、みんなでやることによる相互作用による健康の意味がある。 ・こどもの健康は、学校だけでなく、地域でも考えていく。 ・認知症に対する理解を深め、予防という観点で考える。 ・病気をもちながらも、生きがいをもって生活をしてもらう。 ・元気に暮らせるまちづくりが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての人がみんな健康 こども 認知症予防 元気 生きがい
<p>第3期 基本目標Ⅱ 健康・長寿をめざす地域づくり</p>	<p>第4期 基本目標Ⅱ 健康でいきいきと暮らせる地域づくり</p>

参加してみたい地域の交流

◇地域で参加してみたい交流は、「健康づくりに役立つ活動」(39.4%)、「音楽・スポーツを楽しむ交流」(29.7%)、「防災・減災のための交流」(23.8%)などの順となっています。(令和元年度区民意識調査)

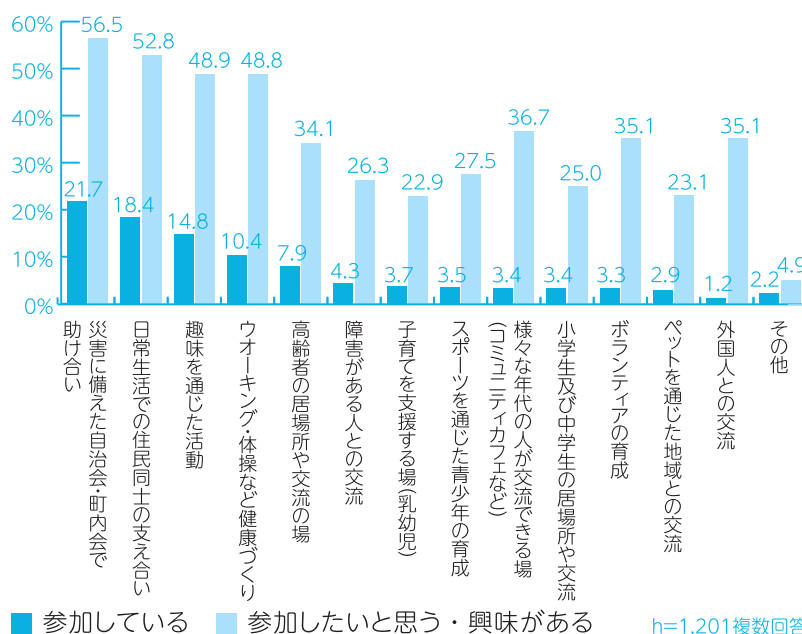


基本目標Ⅲ

団体名	ヒアリングからいただいたご意見	キーワード
ボランティア団体	・アンケート調査により年齢別の得意分野をリサーチし、若い方の興味を引く募集チラシの工夫をしたい。	色々な人が参加
	・こどもが小さい時からボランティアに参加していると、子育てが終わった後にも地域とつながりやすく次世代の育成にもつながる。 ・活動場所を気軽に利用できるように、鍵を借りるしくみなどの簡便化を図り、自主運営が促進されるとよい。 ・区内のボランティア団体でネットワークを作り、お互いの人手不足を補う”サポーター制度”があるとよい。 ・入会后1年過ぎたら若い人から会長になるしくみにして、ベテランが支えて若い人が会長をやっている。	しくみづくり
障害者支援・当事者団体	・障害のある人が社会参加するには、自分自身が前向きに外に出ていく必要がある。 ・障害のある人もお祭りに参加し、手伝いができるとうい。その際はお互いを知り理解がすることが必要。	社会活動参加
子育て支援団体	・広場スタッフは、利用者のママさんに声をかけ先輩ママになってもらっている。 ・異世代交流はお互いのイベントをやって穏やかに触れ合える場所があるとよい。 ・防災の切り口で若い人にも声をかければ関心を持ち参加するだろう。	誰もが参加
地域ケアプラザ	・新しい人が気軽に入っていけるような仕掛けづくりを地域ケアプラザがしていくことが必要。40歳～50歳代の人が特技を活かし、活躍できる場があればよい。	活躍の場
	・利用者懇談会を開催し、登録団体同士交流ができる機会を設け、協力しあえる関係となるよう団体同士をつなげる支援をしている。	団体交流の機会
	・ここ数年、登録団体の中で福祉保健活動の意識が少しずつではあるが高まりつつある。	意識の向上
	・ボランティア養成講座終了後の継続的な支援が大切。	しくみづくり
	・地域が行う活動だけでなく、近所の商店など、企業の活動にも目を向けていかなくてはならない。	連携

瀬谷区の地域活動

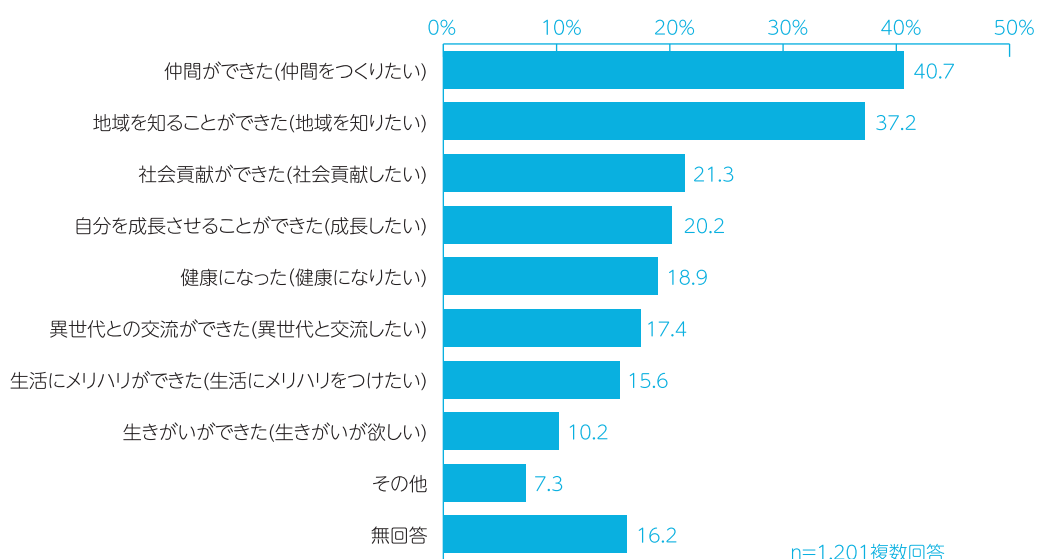
◇「参加したいと思う」と「興味がある」を合わせた地域活動への今後の参加意向は、「災害に備えた自治会・町内会で助け合い」(56.5%)、「日常生活での住民の支え合い」(52.8%)、「趣味を通じた活動」(48.9%)などの順となっています。(令和元年度区民意識調査)



「第4期に向けて」策定懇談会でのご意見	キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・前進した面はあるが、色々な人が活動に参加する状況はまだできていない。 ・障害の人が避難訓練と一緒に参加できる取組をしている。障害者は特別な存在ではなく、ちょっとした配慮や環境でクリアできることはたくさんある。 ・リーダーや一部の人が一生懸命だが、参加する人は増えていない。 ・地域の中でいろいろな交流活動が生まれているが、担い手不足も相変わらずある。担い手として新たな人が入りにくいいため、一定のところで入れ替わる必要がある。 ・「活躍」は、現在活動をしている人は良いが、地域に向けて「活躍」というとハードルが高いかもしれない。 ・活躍に込められた思いを、本冊の中で「それぞれの立場でできることを」と説明があるので「活躍」が良いと思う。 ・地域でアクティブシニアが活躍できる役割を与えられるような雰囲気やしきみが欠けている。 ・活動づくりが大切。リタイアした人や男性も積極的に参加できる地域づくりが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> 色々な人が参加 障害があっても一緒に参加できる 担い手 活躍 役割 しくみづくり 誰もが参加
<p>第3期 基本目標Ⅲ 誰もが活動に参加する地域づくり</p>	<p>第4期 基本目標Ⅲ 誰もが活躍できる地域づくり</p>

地域活動に参加して良かったこと、期待すること

◇地域の活動に参加してよかったこと、期待することは、「仲間ができた(仲間をつくりたい)」(40.7%)、「地域を知ることができた(地域を知りたい)」(37.2%)、「社会貢献ができた(社会貢献したい)」(21.3%)などの順となっています。
(令和元年度区民意識調査)



基本目標を実現するために大切なこと

「第4期に向けて」策定懇談会でのご意見	キーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・こども時代からの意識醸成は課題であり、こども達が素直に育っていく地域づくりをしていきたい。 ・各地域の中で、子育てがしやすい地域づくりをすることが大切。こどもたちにとっての「ふるさと瀬谷」がどうなっていくか。 ・こどもらしさを引き出す、のびのびと楽しんで交流できるような、こどもへの取組を広げたい。 ・活動は、使命感だけでは続かない。やっている側が楽しいと思えることが大切。 ・まだ地域とつながりのない高齢者の方にも、役割を作り地域活動の中で一緒に取り組んでいただく。人生の先輩として、活躍をいただく観点に立ったしくみづくり。 ・「居場所」も様々ある。プレイパークやコミュニティカフェも。役割があることも居場所。 ・こども・高齢者・障害者の活動や学習支援など、居場所づくりは活動が生まれる原動力。 ・これまで居場所とは、部屋や建物として考えられてきたので、それを脱皮するという意味でも住みやすいまちが、みんなの居場所というようにしっかり記載をいただきたい。 ・「居場所」はその人が安心できる場所なので、必ずしも建物や固定空間の意味ではない。人生の居場所として、幼少期は学校、働いている時は職場、高齢になると地域ともいわれる。広い意味があることを冊子の中で説明されているのでこれで良いと思う。「居場所」のキーワードは残したい。 ・事務手続きが煩雑で地域の負担となっている。 ・個人情報共有の方法が課題。 ・担う人の負担を軽くする方法も合わせて計画に盛り込まなくては、頑張っている人が疲れてしまう。 ・こどもから成人までのあらゆる人の考え方を取り入れていけば、将来の計画に沿える。こどもの懇談会も進んでいる。 ・瀬谷には外国籍の方が多い。多様性を認め合う地域をどう作っていくか？マイノリティの人をどうサポートできるか？ ・基本目標は第3期を継続したい。こどもが話題になっているため、こどもの視点を入れ、どの目標にも切り口としてこどもが入ると良い。 ・第3期目標はまだクリアできていないので引き続き第4期へつなぐ。 ・今までの活動をやりつつ現状に合っているか考えながら活動していくことが大切。 ・「しくみづくり」「こども」等のキーワードを基本目標そのものなのか、大切な視点として入れるのか考えていけたら。 	<ul style="list-style-type: none"> こどもを育てる地域づくり こどもへの取組 担い手活動者が楽しめる 高齢者も役割・活躍 居場所づくり しくみづくり あらゆる世代の考え 多様性を認める 「こども」の視点を入れる 第3期からの継続

第3期

- ①一人ひとりの個性や立場を尊重すること
- ②幅広い世代や人が参加すること
- ③必要な情報を把握、共有、発信すること
- ④連携を強め、強化すること
- ⑤様々な地域資源を開発、活用すること

第4期

基本目標を実現するために大切なこと

- ①一人ひとりの個性を尊重する意識づくり
- ②健やかにこどもが育つ環境づくり
- ③幅広い世代や多様な人が参加できる居場所づくり
- ④連携を深めつながりを強化するネットワークづくり
- ⑤必要な人に必要な支援が届くしくみづくり

第4期瀬谷区地域福祉保健計画策定懇談会 名簿

団体名	氏名
学識経験者	名和田 是彦
	岡田 朋子
瀬谷区医師会	太田 和代
瀬谷歯科医師会	大内 昇
瀬谷区薬剤師会	石田 七瀬
瀬谷区連合町内会自治会連絡協議会	網代 宗四郎
瀬谷区連合町内会自治会連絡協議会	諸橋 政治
瀬谷区連合町内会自治会連絡協議会	奥津 敏雄
瀬谷区社会福祉協議会	福田 愛一郎
瀬谷区社会福祉協議会 障害福祉分科会	津田 秀幸
瀬谷区社会福祉協議会 社会福祉施設分科会	平本 千恵子
瀬谷区民生委員児童委員協議会	紅林 千津子
瀬谷区主任児童委員連絡会	久保蘭 祐子
瀬谷区青少年指導員連絡協議会	高橋 三雄
瀬谷区スポーツ推進委員連絡協議会	飯沼 宏氏
瀬谷区保健活動推進委員会	安田 智子
瀬谷区食生活等改善推進委員会	石川 みき子
瀬谷区障害者支援団体	八木澤 恵奈
瀬谷区子育て支援団体	宮本 早苗
瀬谷区シニアクラブ連合会	笹生 登
瀬谷区社会福祉事業者	中野 しずよ
瀬谷区ボランティア団体	森谷 薫
瀬谷区小学校長会	倉岡 ナオミ
瀬谷区中学校長会	令和元年度 山川 伸二
	令和2年度 相原 裕
瀬谷福祉保健センター	令和元年度 五十嵐 吉光
	令和2年度 高野 つる代
	藤澤 智明

順不同・敬称略



第4期 瀬谷区地域福祉保健計画（中間案）

発行年月：令和3年2月

発行：横浜市瀬谷区役所福祉保健課

横浜市瀬谷区二ツ橋町190番地

電話 045 (367) 5743

FAX 045 (365) 5718

横浜市瀬谷区社会福祉協議会

横浜市瀬谷区二ツ橋町469せやまる・ふれあい館2階

電話 045 (361) 2117

二ツ橋地域ケアプラザ

瀬谷区二ツ橋町83-4

阿久和地域ケアプラザ

瀬谷区阿久和南2-9-2

中屋敷地域ケアプラザ

瀬谷区中屋敷2-18-6

下瀬谷地域ケアプラザ

瀬谷区下瀬谷2-44-6

二ツ橋第二地域ケアプラザ

瀬谷区二ツ橋町469

せやまる・ふれあい館1階

お問合せ先：横浜市瀬谷区役所福祉保健課運営企画係

横浜市瀬谷区二ツ橋町190番地

電話 045 (367) 5743

FAX 045 (365) 5718

